

授業科目	作業療法評価学Ⅱ				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)・吉田文 (実務経験者)・林部美紀 (実務経験者)			(オムニバス)	
実務経験者の概要	身体障害・精神障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域のそれぞれの作業療法対象者の特徴を講義や動画などで学ぶ。また、事例を検討しながら評価から統合と解釈の流れを学ぶ。

■ 到達目標

1. 身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域の作業療法対象者の特徴が理解できる。
2. 面接・観察・情報収集・検査測定の実施方法が分かる。
3. 全体像が分かる (ICF で整理し、情報を統合し解釈できる)。
4. 作業療法ニーズが抽出でき、その理由を説明できる。
5. 作業療法計画 (長期・短期目標、具体的なプログラム) が立案できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 作業療法過程の復習
ICF 分類と作業療法評価項目について
- 第2回 事例による ICF の図を作成する
- 第3回 身体障害の特徴説明
身体障害の評価計画
- 第4回 身体障害の評価 (観察・情報収集・面接・検査測定)
- 第5回 身体障害の評価 (検査測定)
- 第6回 身体障害の評価 (検査測定・観察)
- 第7回 身体障害の統合と解釈 (ICF で整理)
- 第8回 身体障害の統合と解釈 (問題点の焦点化と ICF で整理・目標設定)
- 第9回 身体障害の統合と解釈 (作業療法プログラム立案・統合と解釈)
- 第10回 身体障害の統合と解釈 (統合と解釈)
- 第11回 精神障害の特徴説明
- 第12回 精神障害の分析
- 第13回 精神障害の統合と解釈
- 第14回 発達障害の特徴説明
- 第15回 発達障害の分析・統合と解釈

■ 評価方法

単位認定資格者に対し、身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域それぞれ、【科目試験 (筆記試験)】50%、レポート・報告40%、態度10% として評価する。合格は60% 以上とする。

■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

各領域の授業について予習を行っておくこと (指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと)。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。指定されたレポートについては必ず期日までに提出すること。

■ 教科書

書名：標準作業療法学(専門分野)作業療法評価学

著者名：岩崎テル子 他(編集)

出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

他者に説明できるまで、調べて熟考すること。わからないままにしないこと。欠席遅刻に注意すること。

■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格(留年)とする。